

イベントカレンダー

★公開は土日祝日のみで、公開日以外はトンネル空間には立ち入れません。

9 September

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7 ● オープニングイベント「荒野ノヒカリ」 神原忠美+山田茂樹+長屋和哉 13:30~15:00
8 ● Tuk-eMono (断続的に出沒)	9	10	11	12	13	14
15	16 ● Tuk-eMono (断続的に出沒)	17	18	19	20	21 ● 茶番組合 (10:30、11:30、12:30、13:30、14:30、15:30)の計6回
22 ● 茶番組合 (10:30、11:30、12:30)の計3回 茶番組合プロデュース・コンパ『茶コン』 13:00~16:00	23 ● 茶番組合 (10:30、11:30、12:30、13:30、14:30、15:30)の計6回	24	25	26	27	28 ● 1 ドリアン助川 13:30~15:00
29	30					

10 October

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5 ● 1 鈴木昭男 14:00~15:00
6 ● 2 鈴木昭男 & 宮北裕美 13:00~14:00 ● softpad 15:00~16:00	7	8	9	10	11	12 ● 山田亘 & 麻原奈未 14:00~14:45
13 ● 野村幸弘主宰幻想工房 14:00~15:00	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26 ● 2 ドリアン助川 13:30~15:00
27	28	29	30	31		

マルシェ.....自然派おやつと飲み物の販売

5号トンネル手前の暗渠(あんきょ)の周辺空間において、マルシェ(市場)風建築が出現し、こだわりの素材で提供する「おやつ」を販売。自然派志向の参加者が日替わりで出店します。詳しい出店内容はホームページでご確認ください。
※コーディネート:ケータリングユニットPollo(大野ひろみ&平野由美子)

- neshian:ネシアン.....(フード)
- Maua:マウア.....(おむすび)
- ALOUETTE:アルエトウ.....(焼き菓子)
- Chrysocolla:クリソコラ.....(無添加焼き菓子)
- ladybug:レディバグ.....(マフィン)
- cafe notari:カフェ ノタリ.....(飲み物)
- 喫茶クロカワ.....(飲み物)
- ヨフカン.....(クッキー・ケーキ)
- ドル子工房.....(焼き菓子)



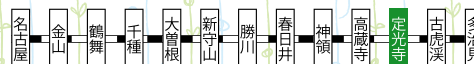
- Sachi:サチ.....(日本茶)
 - コクウ珈琲.....(珈琲)
 - モリノイエ.....(焼き菓子)
 - 空歩 21.....(菜食フード)
 - ibumaki:イブマキ.....(農家の米酵母パン&菓子)
 - ミツバチ食堂.....(フード)
 - PECHE:ペーシュ.....(焼き菓子)
 - まっちゃん&山本佐太郎商店.....(かりんとう)
- (順不同)

- 会場.....愛知県春日井市玉野町 愛岐トンネル群廃線とトンネル群1.7km
- 主催.....NPO法人 愛岐トンネル群保存再生委員会
- 後援.....愛知県、愛知県教育委員会、春日井市、春日井市教育委員会、春日井商工会議所
- 企画.....高橋 綾子(名古屋芸術大学美術学部准教授)
- 協賛.....矢作建設工業(株)
- お問い合わせ.....NPO法人 愛岐トンネル群保存再生委員会 事務局
〒486-0844 春日井市鳥居松町2-81 ホトス春日井版 編集室内 TEL 080-9492-5458

- プロジェクトメンバー
- 建築:多田直人(多田直人建築研究所) ●デザイン:田端昌良(ゲラーデ舎)
- 建築協力:伊藤マキコデザイン+、交吉製材株式会社 ●舞台協力:吉戸俊祐(セツ寺共同スタジオ)

悪天候(強風・強雨など)の際にはプログラムに変更があります。前日と当日に事務局までお問い合わせ下さい。随時、ホームページでもお知らせします。会場付近には駐車スペースがありません。必ず、公共交通機関(JR)で来場くださいますよう、お願いいたします。

会場・アクセスなど
※周辺には駐車スペースはありません。くれぐれも公共交通機関(JR)をご利用下さいませ。お願いいたします。
JR名古屋駅から中央線で多治見・中津川方面行き、約30分。
電車のダイヤ=名古屋駅発、毎時9-31分の普通、又は快速で「高蔵寺」駅乗り換え。
「定光寺(じょうこうじ)」駅下車、誘導看板により300mで入口。
※舗装されていない山道や、砂利の多いトンネル内を歩きます。動きやすい服装や靴でお出かけ下さい。



愛岐トンネル群・アートプロジェクト2013

荒野ノヒカリ

2013年9月7日(土)~10月27日(日)の土・日曜日、祝日の19日間

9月 7日(土) 8日(日)
14日(土) 15日(日) 16日(月)祝
21日(土) 22日(日) 23日(月)祝
28日(土) 29日(日)
10月 5日(土) 6日(日)
12日(土) 13日(日) 14日(月)祝
19日(土) 20日(日)
26日(土) 27日(日)

計19日間

K O U Y A N O H I K A R I

トンネル空間(近代化産業遺産・特別公開)での現代アート展。普段は立ち入れない“荒野”に出現するのは何か? はたして闇の中で出会うのは、自然の時間、人間の身体と内なる声、理知なる“ヒカリ”ではないか? トンネルの闇、そして陽の光がそそぐ小道。五感で楽しむ、19日間のアートプロジェクトです。



- 開場時間.....10:00~17:00(入場16:00まで)
- 入場料(当日券のみ).....一般...500円 中高生...300円 小学生以下...無料 会期中バスポート...800円

<http://kouyanohikari.jimdo.com/>



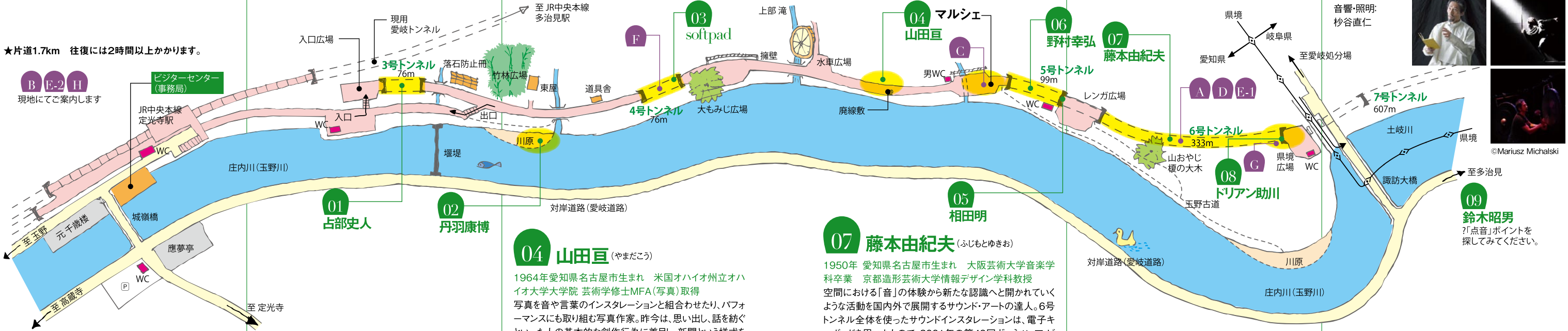
《荒野ヒカリ》に寄せて

愛知 知県春日井市と岐阜県多治見市間の旧国鉄中央線廃線跡「愛岐トンネル群」は、明治期に造られた赤煉瓦のトンネル空間や、風光明媚な玉野渓谷をのぞむ秘境の佇まいで、春と秋の特別公開では多くの見学者に人気を集めています。この産業遺産群と歴史遺産と美しい自然を三位一体としたワイズユース(賢明な再利用)を目指すNPO法人愛岐トンネル群保存再生委員会が、あいちトリエンナーレ2013の期間中に「全国初

のトンネル空間での現代アート展を実現しよう」と立ち上がりました。7年にわたる地道でたゆまぬ努力によって整備されてきた廃線跡のトンネル空間。荒ぶる自然と、時に戯れ、時に戦い、それは、遠き過去の掘削の困難さをも彷彿とさせます。トンネルへの道程には、「荒野」が似合うのです。人間の必需から逸脱して放置された〈時間〉と〈空間〉を取り戻すための「ヒカリ」。ヒカリ(光)とは、陽の光であり、アートの光線、映像でもあり、そして人の「理解」を刺

激してくれるような、音や言葉でもあるでしょう。荒野に出現するのは何か? トンネル群の魅力と潜在力を、アーティストたちの試みで顕在化させます。4つのトンネルを結ぶ歩道には陽の光がそそぎ、日替わりのパフォーマンスや楽しく創造性に富んだ飲食の場も提供されます。「荒野ノヒカリ」は五感で楽しむ、19日間のアートプロジェクトです。

高橋綾子(名古屋芸術大学美術学部准教授)



★片道1.7km 往復には2時間以上かかります。



01 占部史人 (うらべふみひと)

1984年 愛知県西尾市生まれ 愛知県立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了
砂浜で拾い上げられた流木の素朴な造形の船が3号トンネルに浮かびます。「浮寝の旅」シリーズの集大成となる本作は、何万年も昔に海流と風に乗って海を渡ってきた人々の時間の流れや空間の広がりを表現しています。水平に浮かぶ船の様に水面が想起されますが、トンネルの空間がもつ過去から現在へとつながるような直線的な時間軸から、流木が海原を漂ってきた際の水平に広がっていくような時の流れの中へと観る者を誘います。



02 丹羽康博 (にわやすひろ)

1983年 岐阜県土岐市生まれ 愛知県立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程彫刻領域単位取得退学
竹林広場を抜けて東屋を見渡し河原に抜ける小道には、NPOメンバーが愛情をもって拓いた場の魅力があります。作家は、この河原周辺に目をむけて、心地よい空間を探ります。それはささやかで密やかな営みの時間の集積となるでしょう。一見ケルンのようなでもあり、卒塔婆のような佇まい。作品然と威張らないそれは、作家が真摯に場と対話することで成立します。



03 softpad (そふとぱど)

1999年結成 本展参加の主なメンバーは南塚也、奥村輝康、竹内 創、栗津一郎、外山央
音響・映像ユニットならではの4号トンネル全体を使ったサウンドインスタレーション。スピーカーを点在させて、トンネルならではの音響効果を生み出します。音源は、具体的な過去の時間を想起するものでありつつも、抽象的で未来的な音体験が展開されるでしょう。



F softpad

サウンドパフォーマンス
10月6日(日) 15:00~16:00
4号トンネルにて 無料、鑑賞自由
softpadのメンバーによる音と映像のパフォーマンス。

05 相田明 (あいだあきら)

1969年 東京都生まれ 東京農業大学大学院 農学研究科 農学専攻博士後期課程修了 博士(造園学)
岐阜県立国際園芸アカデミー准教授
署名性の強いアートに対して、造園の思考は、場に帰属した無名性の営みです。「形あるものはいつか消えゆく、自然に還る」と考える相田。トンネルに積まれた堅牢な赤レンガとの対比を意図し、日干しレンガの整列が5号トンネルの内と外に設けられます。崩れた日干しレンガから生えてくる雑草に対するいとしさから、その自然観を提示することを意図し、人が集う「プラットフォーム」作りに取り組みます。



04 山田亘 (やまだこう)

1964年 愛知県名古屋市生まれ 米国オハイオ州立オハイオ大学大学院 芸術学修士MFA(写真)取得
写真を音や言葉のインスタレーションと組み合わせたり、パフォーマンスにも取り組む写真作家。昨今は、思い出し、話を紡ぐといった人の基本的な創作行為に着目し、新聞という様式を活用したメディアプロジェクトも展開している。今回は、4号と5号トンネルまでの長い散策の途中に、音の仕掛けをほどこし、来場者に不意な驚きと好奇心を喚起させます。ノスタルジックで愛嬌のある作風を得意とする作家は、さらに本企画では初の「演劇」に挑戦。名古屋で劇団を主宰する若手女性演劇人との協同による創作は、パフォーマンスとは呼ばず、あえて「演劇」と愚直に宣言してみせます。



G 山田亘&麻原奈未(劇団オートバイ)

演劇「下弦の國」かげんのくに
10月12日(日) 14:00~14:45
6号トンネル奥の出口付近にて 無料、鑑賞自由

06 野村幸弘 (のむらゆきひろ)

1961年 京都府京都市生まれ 東北大学大学院、シエナ大学にてイタリア美術史専攻 岐阜大学教育学部教授
「場所」をキーワードに様々な活動を「幻想工房」の名で展開。今回は音楽家・片岡祐介のトンネル空間での即興を記録した映像作品「場所の音楽〜愛岐トンネル群」を5号トンネル内で上映します。また、4つのトンネルを含む全行程1.7キロを走破することで4楽章の即興曲を構成する「幻聴音楽会-1.7kmの音楽」も開催。



H 野村幸弘主宰幻想工房 (片岡祐介、坂野嘉彦、鈴木潤ほか)

「第31回幻聴音楽会-1.7kmの音楽」
10月13日(日) 14:00~15:00 無料、鑑賞自由

《愛岐トンネル》とは?

1900年、名古屋駅から岐阜県多治見市を結ぶ国鉄中央本線が開通した。この時、庄内川沿いの定光寺から多治見間の8キロあまりの距離に全国でも珍しい14ヶ所ものトンネルが掘られた。1961年、新ルート開通によりこれらの鉄道が廃線となり、1968年には多摩・千里と並ぶ3大マンモスニュータウンの高蔵寺エリアが裏山で開発され活況を呈したが、約8キロの軌道敷は川沿いの急峻な崖にあったため、2006年に市民の手で発見されるまで半世紀の間、人々の記憶から消え去っていた。その後、市民らによる発掘・整備が進む中、全国最多の明治期の貴重な産業遺産であると判明したことをきっかけに、地域の大切な資源・資産である

ことから「愛」知と「岐」阜の活性化の架け橋になることを願って「愛岐トンネル群」と命名された。愛知県内1.7km区間にある3〜6号トンネル4基は、2009年経済産業省「近代化産業遺産33」に認定。春・秋の特別公開には例年全国各地から数万人がトンネルとモジミの競演を楽しみに訪れる。(★今秋は11月22日から27日までの6日間公開)



07 藤本由紀夫 (ふじもとゆきお)

1950年 愛知県名古屋市生まれ 大阪芸術大学音楽学専攻 京都造形芸術大学情報デザイン学科教授
空間における「音」の体験から新たな認識へと開かれていくような活動を国内外で展開するサウンド・アートの達人。6号トンネル全体を使ったサウンドインスタレーションは、電子キーボードを用いたもので、2001年の第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ出品作である「Room (Venice)」と同様のコンセプト展開となります。300メートル余の通路に4台の電子キーボードが設置され、移動とともに変化する不協和音の響を鑑賞者は体験することとなるでしょう。



09 鈴木昭男 (すずきあきお)

1941年 旧平壤生まれ 愛知県に引き揚げる
「階段に物を投げる」非公開イベント(名古屋駅中央線ホームの階段:1963年)以来、長年に渡ってサウンド・アートを切り拓いてきた世界的な先駆者です。創作楽器のエコー・インスツルメント「ANALAPOS」などを用いたサウンド・パフォーマンスを展開。野外で楽しむ茶会の「野点(のだて)」のように、野外で音を楽しむ事を「点 音(おとだて)」と命名。耳&足マークの「点音」ポイントに来場者が探して、耳を澄まします。



E 鈴木昭男

e-1 サウンド・パフォーマンス「点回え」e-date
10月5日(日) 14:00~15:00 無料
6号トンネル内ステージ 13:30 開場(当日整理券を配布)
「ANALAPOS」等を用いた音響パフォーマンス。トンネルならではの特別な響きに、「帰帰」する音を体感ください。

e-2 空っぽ「ぼんぼりん」(鈴木昭男&宮北裕美)

10月6日(日) 13:00~14:00 無料、鑑賞自由
音とダンスの即興セッション。自由自在にトンネル空間が「遊び場」になります。

08 ドリアン助川 (どりあんすけがわ)

1962年 東京都生まれ 神戸市育ち、早稲田大学第一文学部東洋哲学科卒業
「叫ぶ詩人の会」や深夜放送の人生相談で知られた後、小説家として活動の幅を広げるアーティスト。近年は執筆活動と「アルルカン・ヴォイス・シアター」の歌い手としてのライブ活動を両輪にして活躍。アートプロジェクトへの参加は今回が初のものであり、6号トンネル奥で「あなたへの100の言葉」を設え、来場者それぞれにひとつの言葉をプレゼントします。会期中2回、6号トンネル内の特設ステージでライブを実施。

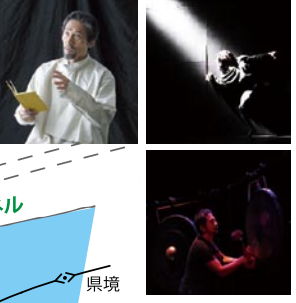


D アルルカン・ヴォイス・シアター

「トンネルで世界を叫ぶ」
10月28日(日) 13:30~15:00
6号トンネル内ステージ 13:00開場
入場料1000円(予約制:HPおよび電話で予約ください)
「世界詩集」
若きドリアンが東欧の革命を目の当たりにしてから20余年。時代は推移し、次の世界へと傾れ込んでいきます。旅人として見てきたもの、触れてきたものに内包されたエネルギー。いま、トンネルの闇の中で、世界がどう変わろうとしているのか、言葉と写真と音楽で伝えます。
10月26日(日) 13:30~15:00
6号トンネル内ステージ 13:00開場
入場料1000円(予約制:HPおよび電話で予約ください)
歌劇「クロコダイルの恋」
世界中の動物をキャラクターに物語を練りだすアルルカンの舞台。クロコダイルはなぜ太平洋の真ん中まで泳いできたのか。悲恋の歌劇をお届けします。

A オープニングイベント「荒野ノヒカリ」

神原忠美(朗読)+山田茂樹(ダンス)+長屋和哉(音楽)
朗読「木を植えた人」+ダンス+音のコラボレーション
9月7日(日)13:30~15:00 6号トンネル内ステージ
13:00開場 入場料1000円(当日受付)
「木を植えた人」は、南プロヴァンスの荒地に毎日100個ずつドングリを地面に埋め森をよみがえらせた羊飼いの物語。神原忠美のライフワークともいべき朗読を核に、身体(山田茂樹)と音(長屋和哉)の共演がトンネルの闇の中で展開します。馬場駿吉による俳句(発句と揚句)も、このコラボレーションに添えられます。
音響・照明: 杉谷直仁



B Tuk-eMono (サウンドパフォーマンス)

「つけもリズム」
9月8日(日)9月16日(日)月祝
無料、鑑賞自由(断続的に出沒)
愛知県立芸術大学音楽学部の学生がトンネルを訪れた際、石のリズム遊びから音楽が生まれたことを発端に結成されたチーム。移動しながらのゲリラ的演奏パフォーマンスが断続的に展開されます。



C 茶番組合 (Chaban-guild)

「愛岐トンネル群の茶番ギャルト」
9月21日(日)9月22日(日)9月23日(日)月祝
茶会を脱構築するアート・パフォーマンス「茶番ギャルト(Chaban-garde)」というコンセプトのもと、2010年から茶会漂流をスタート。都市型漂流茶室「接庵庵」シリーズ、河原茶室などを企画・製作。今回は時空を貫く共時空間茶室「接庵庵 ver.Chronus」をトンネル群の遺構に出現させる。
●開催時間は1時間1回(30分程度)で、参加希望の方は当日茶券(300円)を購入してください。
●9月21日の13:30、14:30の回はクロノスのパフォーマンス茶会となります。
(参加者募集) 茶番組合プロデュース・コンパ「茶コン」
9月22日(日)13:00~16:00/募集人数:8名限定(男性4人、女性4人)/参加費用:3000円
予約:下記アドレスへご連絡ください。折り返し受付のお返事をいたします。
chabanguild@gmail.com

